種智院大学　臨床密教センター　（東北大学実践宗教学寄付講座　共催）

第３回臨床宗教師養成講座　報告書

２０１８年の臨床宗教師養成講座は、東北大学実践宗教学寄附講座と共催という形で行われ、真言宗のほか、曹洞宗、大本の受講生が集まり、計１０名でプログラムに取り組みました。

目次

ごあいさつ・・・・・・・・・・・・p.1
第３回臨床宗教師養成講座修了によせて・・・・・・・・・・・・・・・・・p.2
アドバイザー報告　申英子・・p.2-3
「出逢い」と「ケア」
大村哲夫・・・・・・・・・・p.3-4
臨床宗教師養成講座にかかわって
吉田敬一・・・・・・・・・・・p.5
皆さんの背中を見ながら考えたこと
鷲尾龍華・・・・・・・・・・・p.6
第３回臨床宗教師養成講座実施報告 p.7-11
受講生の感想・・・・・・・・・p.11-16
寄附のお願い・・・・・・・・・・p.16

2016年から始まった当センターの臨床宗教師養成講座も、無事今回3回目を修了することができました。東北大学実践宗教学寄付講座が2012年から行ってきた3ヶ月の短期集中型のカリキュラムを模倣する形で、「日頃宗教者としての活動が忙しい方でも受講できる講座」を理想としてこれまで研修を行ってきましたが、気がつけば本家の東北大学が3ヶ月研修の募集を停止してしまい、各地で行われている日本臨床宗教師会認定のカリキュラムの中では当センターの講座が唯一の短期講座となってしまいました。

東北大学が3ヶ月研修を停止したのが直接の理由ではありませんが、今回は共催という形で様々な形で東北大学様からご協力を頂き、これまで以上に充実した研修を行うことができました。さらに今回は昨年の真言宗大本山石山寺様に続き、天台寺門宗総本山三井寺様にも研修会場をご提供いただいたことを始めとして、研修の様々な面でご協力を頂くことができました。真言宗・天台宗をそれぞれ代表する古刹のひとつである両寺にご協力いただけたことは、今後臨床宗教師がもっと社会、そして宗教界に注目していただける良いきっかけになったのではないかと思っています。

また今回は大きな講座の変更点として、真言宗僧侶以外の受講を許可しました。これまでは真言宗僧侶に限定して募集を行ってきましたが、今年3月に臨床宗教師の資格認定制度がスタートし臨床宗教師への注目がますます高まる中、当講座も日本臨床宗教師会の認定プログラムとしての責務を果たすべく、受講生の間口を広げることを決断しました。プログラムの準備が間に合わなかった為、今回はすべての宗教者の受講を受け入れることはできませんでしたが、今後少しずつさらに間口を広げてゆきたいと考えています。しかし受講資格を広げていったとしても、これまで当センターの講座がこだわってきた、臨床宗教師として活動する中で宗教者として自分の信仰をしっかりと見つめるという姿勢は堅持してゆきたいと思います。

最近は全国、そして世界規模で自然災害が続いています。あまりに多すぎて悲しいことですが、次の被災が起こると以前起こった被災のことをすっかり忘れてしまう風潮があるような気がします。また被災に限らず、悲しく痛ましい事件が続く中で声を挙げる事もできず、社会からいつのまにか忘れられて苦しんでいる人達がいます。こんな時だからこそ当センターの理念である「普賢行願皆令満足」の精神を胸に、すべての人々の悲しみに耳を傾け、寄り添い、すべての人が救われるまであらゆる努力を続ける臨床宗教師でありたいと思います。

臨床密教センター　センター長　松本 峰哲

第３回臨床宗教師養成講座　修了によせて

アドバイザー報告

日本基督教団西九条ハニル教会牧師
日本スピリチュアル学会スピリチュアルケア師
臨床スピリチュアルケア協会運営委員
米国＆日本ハコミ研究所認定心理療法士
申　英子

５月からはじまり７月に終えた７日間の第３回種智院大学密教センターによる臨床宗教師養成講座のお手伝いをさせていただきました。今回、特にとても嬉しかったことが二つあります。それは 10 名の受講生中、４名が女性であったことです。どうして「とても」と表現したのかは、あらゆる宗教、ちょっと言い過ぎかもしれませんが、大抵の宗教団体・組織の中で女性はマイノリティーになっているからです。教えを宣うのはほとんどが男性、受け取る側は女性という構造になっています。

それと今回プログラムの中に、「人権擁護」が入っていたことです。人権については切り口は多くあり、あらゆる角度から語ることはできますが、私の場合は主に「在日コリアン女性」という点に絞って語らせて頂きました。昨年の関西臨床宗教師フォローアップ研修の際に、谷山洋三先生が講義中、「あ、そうそう申さんは女性、在日コリアン、宗教（キリスト教は日本ではマイノリティー）という 3 つに関わっていますね」と講壇のかなり前に座っていた私をご覧になって言われました。それに今は「加齢」をくっ付けている私です。

10 名の方たちの反応はそれぞれで、まったく在日コリアンのことを知らないという方から、親しい友人の中に在日コリアンがいるとういう方まで、かなりの幅がありました。また。このような差別がまだあることに驚いておられた方もおられました。

ただ「自分を知るという作業」は、自国の歴史や社会を理解しないでままで、できるものではありません。日本の近代、現代史を学び、今の自分を理解することは臨床宗教師として不可欠であると思います。今後はこれをきっかけにあらゆる人権問題、たとえば民族、多様な性、国籍、年齢、障がい者、高齢者、その他のこともしっかりと学ぶ姿勢は持ち続けたいものと考えます。

ロールプレイや会話記録は他者に関わることを通して自分の在り様があぶりだされるワークです。終わってみて、大変きつかったと感じられた方もおられるでしょう。

会話記録検討会は大村哲夫先生と５名ずつの２班に分けて担当させて頂きました。

会話記録では、１回目に指摘されたことを２回目にはクリアできた方、２回目にはかえって自分の課題は何なのか混乱してしまった方など、さまざまでした。ただ、これは１回や２回で終わるものではなく、臨床宗教師として活躍するならばフォローアップ研修などで何度も経験して頂きたいことです。クライアント

（来談者）に向き合う自分の在り様にブレを感じる時は、このワークを受けることで軌道修正をさせていただけるという利点があります。

弱っておられるクライアントは既にケア提供者の在り様をズバリ見抜いておられます。テクニックではなく丸裸で相手と向き合えるか、ということです。かくいう私も今は SV をさせて頂いていますが、はじめてのスピリチュアルケアの研修（臨床スピリチュアルケア協会　通称パスク）では旧い自分を壊す作業で痛い目に何度も遭遇しましたし、今も修行を必要として機会があればそれを受けようとしています。

臨床宗教師に身を投じて行くには、フォローアップ研修（FU）に積極的に参加する意欲を持ち続けるのが望ましいと思います。

今回も種智院密教センターの臨床宗教師養成講座度に加えて頂き、皆さまとともに学びに連ねさせて頂くことで、わたくし自身の自己探求の旅が豊かにさせられています。

種智院大学密教センターの松本峰哲先生をはじめ、スタッフの皆さま、ありがとうございました。研修を終えたみなさま、またどこかでお出会いすることを楽しみにしています。

合掌

申英子（シン・ヨンジャ）

「出逢い」と「ケア」

東北大学大学院文学研究科
助教
大村　哲夫

今年度から種智院大学の講座に加わった大村です。どうぞよろしくお願いします。

私は東北大学と愛知学院大学の講座にも関わっていますが，今回改めて感じたことは，種智院大学をはじめそれぞれの講座に個性があるということです。カリキュラムの内容はある程度統一されており，それほど差はありません。しかし全体の雰囲気は明らかに異なります。どうしてこのような個性が生じたのでしょうか。

これはケア対象者と会う場合を考えてみると納得できるでしょう。例えば「死にたい」という切実で重い悩みを抱えたケア対象者と，ケア提供者である臨床宗教師が出逢う場面です。私はしばしば医療者や関係者向けの講演会を頼まれるのですが，「死にゆく患者にどのように対応したらよいか」，「具体的なケア・マニュアルが欲しい」と，質問されたり，要求されたりことが少なくありません。私が「マニュアルはありません」と応えると，質問者はがっかりした表情を浮かべられます。マニュアル化されていないことを非難する視線さえ感じることがあります。ではなぜ，私はそのような答え方をするのでしょうか。

ケア対象者とケア提供者との出逢いは，たった一度だけしか起こらない，まさに「一期一会」の機会です。同じ「死にたい」という訴えであっても，その方自身の病気や症状からくるのか，経済状況によるのか，それとも人間関係に何か問題があるのかなど，訴えの原因や背景は異なります。ケア対象者の置かれている状況（支援の有無など）や，性格などもまちまちです。同じことはお話しを聴く臨床宗教師自身にも言えます。臨床宗教師が拠って立つ宗派や教義の違いだけではなく，個人的人生観や宗教観などの価値観も，歩んできた人生も，人によってまったく異なっているでし

ょう。「ケア」とはすなわち，かけがえのない人格がかけがえのない人格と出逢うという，まさに「千載一遇」の出逢いによって営まれています。二人の出逢いは無限大かける無限大の遭遇であり，そこから生まれるケアのあり方も千差万別となるでしょう。ですからこころのケアには，トレーニングはあっても，「マニュアル」はないのです。

さて，こころのケアを行うには，傾聴など相手の感情をしっかり受け止める方法を学ぶだけではなく，「自己を見つめ，自己を知る」ことが欠かせません。相手の気持ちを受け止めようとすることは，訓練によってある程度習得できるかもしれません。しかし，それではまったく不十分です。前述したように，ケアとは人と人との出逢いによって営まれます。ケア対象者と自分との間に起こる化学反応によってケアが産まれるのだとも言えます。だからこそ「自分」を知ることが大切なのです。

自分という人間には，これまでの人生の結果，いろいろな考え方の「くせ」が身についています。例えば，若い男性の話はサポーティブに聴けるが，年配の女性の話はどうも苦手であるとか，家庭の話が話題に上ると，つい夫婦円満を説教してしまうとかです。これらは自分で意識していないことが多いため，自分から気づくことは出来ません。他者から指摘されても納得できないことが多いでしょう。今回，受講生が「会話記録」で学んだように，他者の力を借りてはじめて自分の「くせ」に気づき，知ることができるのです。ところで，この自己を知ることは，実際のところ「痛み」が伴います。自分がそうした「くせ」をもつに至った苦い体験も，思い出さなければならないからです。それは往々にして未解決のまま棚上げされ，「凍結」してきたトラウマかもしれません。しかしこうした自分の「弱点」を知り，それを自分の人生の「課題」とすることが出来た時，はじめて本当の意味で他者に向き合うことができるのです。こうした自己を見つめる作業は，「修行」であると言っても過言ではありません。

さて冒頭の話題に戻ります。種智院大学の臨床宗教師講座は，種智院大学と受講生一人一人との出逢いです。松本先生をはじめとする講師たちが「あなた」と出逢うことなのです。そこで醸し出される雰囲気は，当然，他の大学と異なってくるでしょう。そして私は，種智院大学の講座の雰囲気は大変よいと感じています。講師だけではなく，スタッフや臨床宗教師の先輩，石山寺や三井寺といった「場」の力など，すべてが有機的に関わってこのよい雰囲気を醸成しているのです。種智院大学の臨床宗教師養成講座が，独自のカラーをもつ所以です。

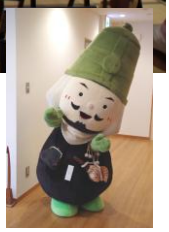
この講座は，受講生が横のつながりを大切にし，修了した先輩が後輩を支えることによって成り立ち継続しています。同じように皆さんの協力が今後の臨床宗教師活動を作っていくことでしょう。今後の修了生の活躍に期待するとともに，種智院大学の臨床宗教師講座のますますの発展を祈ります。

臨床宗教師養成講座にかかわって

宗教法人　西栄寺
介護福祉部長
吉田　敬一

種智院大学　第３回臨床宗教師研修を修了された方々、並びに関係者の皆さま方におかれましては、お疲れ様で御座いました。私は、宗教法人直轄の介護事業を運営しております関係で、この度は、臨床宗教師研修の現場実習を担当させていただきました。研修生の真摯な姿勢に、介護を必要としている利用者も、また職員も良い刺激を頂いたと感じ入っております。

私たち宗教法人の介護福祉部では、介護環境においての臨床宗教師の役割について考察を重ねてきましたが、介護職もしくは臨床宗教師か、どちらの立場であっても、利用者の暮らしの中で最も重視しなければならないことは利用者本人の自立のための支援であることです。介護保険法の、介護保険第二条の４では「（略）その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう配慮されなければならない」と明記されています。また国民の努力及び義務第四条にも「（略）リハビリテーションその他の適切な保険医療サービス及び福祉サービスを利用することにより、その有する能力の維持向上に努めるものとする」と介護の本質が示されてあります。いわゆる、利用者の自立支援とは、できないことを補うのではなく、できないことをできるように支援し、できることをできなくしないように支援することにあります。できないことを単に補うだけの支援では、支援の依存を生み出す恐れがあり、こうなると、支援する側が主体とり、支援者と利用者との間が、服従関係にまで及んでしまいます。このような間違った支援にならないように、支援する側には様々な訓練を継続して受ける必要があります。これらのことは臨床宗教師とて同じことが言えます。臨床宗教師研修を修了したから臨床宗教師になれたのではなく、臨床宗教師への道のりが始まったと考え、今後も、日本臨床宗教師主催のFUや臨床宗教師研修を実施している大学の講座などを積極的に受講すべきです。



介護の世界には「介護に正解はなし」という言い伝えがあります。介護では、利用者に対してのアセスメントからモニタリングまで、何段階にも分けて評価する仕組みがあっても、それが良い支援かどうかを評価するのは利用者本人であり支援者ではないという意味ですが、この考え方を臨床宗教師に照らして考えますと、傾聴活動であれ、スピリチュアルケアであれ、宗教的ケアであれ、支援の現場では、それが良いかどうかを評価するのは少なくとも臨床宗教師の私たち本人であってはならないということが言えるのではないでしょうか。

臨床宗教師研修での会話記録検討会で、自分の傾聴姿勢がどうだったのかを自分以外の人たちに厳しく評価されるということの大切さも、「介護に正解はなし」に通じていると私は考えています。

私たちの介護施設では、１名の臨床宗教師が非常勤の職員として勤務していますが、支援の現場で学びを深めたいと考えている方を常時受け付けておりますので、ご希望の方は遠慮なくご相談ください。

皆さんの背中を見ながら考えたこと

大本山石山寺塔頭法輪院住職
種智院大学臨床密教センター事務局
鷲尾　龍華

今年度の研修は東北大学実践宗教学寄附講座との共催となりました。その中で、事務局として関わらせていただきました。今回は複数の宗派合同での研修となり、また三井寺様にも特別にご協力いただいたこともあって、とても充実した研修になったと胸をなでおろしているところです。ご協力いただきました会場の皆さま、お手伝いの皆さまには、この場を借りて改めて御礼申し上げます。

私が東北大学で臨床宗教師研修を受講したのは2015 年のことでした。谷山先生、大村先生には当時からお世話になっており、自分が受講した時のことを回想しながら、今回も後ろから講義を聞かせていただきました。

人は、様々な思い込みに縛られて生きています。例えば先の研修中でも、配偶者の呼び方を「主人」「奥さん」とするのはひとつの無意識的な偏見であるという見解がありました。日常生活において、思いがけず偏った言葉を使うことが、われわれにはあります。「会話記録」では、傾聴の現場での会話を再現することで、傾聴者の持つ思い込みというものが炙り出されます。思い込みは、時にケア対象者を傷つける要因になり得るものです。しかし、そういった誰もが持つ「欠点」とするものを「傾向」として受け止める、それが会話記録なのだろうと思います。欠点を持たない人はおらず、それがその人が築き上げてきた生き方であり、特性でもあります。自身を知り、客観的に見つめる機会を多く持てば、患者さんを言葉によって傷つける危険性が低くなるといえるでしょう。

東北大学で研修を受講した時の私には、「自分は人に影響を与えてはいけない」というネガティブな思い込みがありました。それは私の成育歴からくるものなのですが、会話記録を続けてすることで、「私は何かを他人に発しても良い」と思うようになりました。これは自分を縛り続けていたものから解き放たれた瞬間であり、おそらく傾聴する姿勢というのもここで変わったのではないかと自分では思っています。会話記録やグループワークで学ばなければ自分のこうした姿にも気付くことができなかったでしょう。

ところで、今回後ろからサポートしていて特に感じたことは、この養成講座も年代によって、受講生の方々のカラーが全く違うということでした。毎回講座に集まる人が異なり、講師の先生方、お手伝いの先輩方も顔ぶれが少しずつ異なります。これは当然のことなのですが、人と人とが出会うことで生まれるものは、その時々により違います。それが組み合わせによってこんなにも違いが出るのだなあと実感したのが今回で、皆がお互いを補い合うという、これまでになく朗らかな研修であったと感じました。先にも述べましたが、今回は石山寺に加え三井寺様でご協力いただけたということが非常に大きく、大津の自然と町が溶け合う風土の中、神仏のおわす神聖なる場所を学びの場としてご提供いただけたことも、その大きな要因であるように思います。

どこで誰と、どんなふうに出会うのか。そのご縁はとても貴重なもので、ひとつ欠けても同じ縁にはならなかったはずです。一期一会。ケア対象者との出会いもそういうことなのだと思います。だからこそ、「練習」はない。いつも本番という気持ちで、ご縁を大切にしていきたいものです。

皆様との出会いに感謝し、それぞれがそれぞれの場所で、より活躍されますことを心より祈っています。

第３回臨床宗教師養成講座実施報告

臨床密教センターでは、平成30年5月から7月にかけて第3回臨床宗教師養成講座を実施しました。カリキュラムについては、昨年に引き続き東北大学で実施されている臨床宗教師研修（特に第7期）のカリキュラムに準じたものとし、今回は真言宗僧侶以外の宗教者で、当センターの理念に賛同できる方に関しても受け入れました。臨床密教センターのカリキュラムには真言宗教義に関するもの、異宗教理解・交流に関するものを設置していることが大きな特徴です。

▲第１回全体会終了時の写真。これからの現場実習に向けて、受講生は緊張の面持ちです。

・・・研修データ・・・

期間

全体会１　2018年5月9日（水）～11日（金）
全体会２　2018年6月5日（月）～6日（火）
全体会３　2018年7月3日（火）～4日（水）

全体会会場

第1回・第3回：大本山　石山寺（滋賀県大津市）
第2回：総本山園城寺（三井寺）（滋賀県大津市）

実習先

小笠原内科（岐阜県岐阜市）
医療法人聖徳会が運営するクリニックと訪問看護ステーション・介護支援サービスによる在宅緩和ケアを行う。緩和デイケアも実施。独居の看取りにも傾注しているので、ボランティア多数登録。

岡部医院（宮城県名取市）
故岡部健医師が設立した、医療法人社団爽秋会による在宅緩和ケアの専門機関。岡部医院スタッフの訪問活動に同伴し、がん患者の療養生活の場を見学。訪問先は名取市内・仙台市内、平日日中の訪問に帯同する。

西栄寺介護事業　お寺の介護　はいにこぽん（大阪府大阪市）
「宗教法人としての訪問介護事業」を行う。サービス管理者の吉田敬一師は、第１回臨床宗教師研修修了者。

弘恩苑（香川県高松市）
社会福祉法人・弘善会が運営する施設。同法人は弘法大師空海の「済世利人」の教旨を理念として、今回研修を行う「弘恩苑」以外にも、「児童養護施設　讃岐学園」、「特別養護老人ホーム在宅複合型施設　香色苑」、「ケアハウス弘恩」、「特別養護老人ホーム　法寿苑」の４つの施設を運営している。

沼口医院（岐阜県大垣市）
医療法人徳養会が運営するクリニックと、訪問看護ステーション・アミターユスにより、在宅緩和ケアを行う。臨床宗教師が常駐している。

松阪市民病院緩和ケア病棟（三重県松阪市）
松阪市が運営する市民病院内にある院内独立型の緩和ケア病棟。臨床宗教師が活動している。

くぬぎ山ファミリークリニック　オガールむつみ（千葉県松戸市）
共に医療法人社団豊寿会が運営しており、くぬぎ山ファミリークリニックは在宅支援診療所で訪問診療、訪問介護を行い、オガールむつみはサービス付き高齢者住宅。社会福祉法人高嶺福祉会と協力関係にあり、同法人の運営している特別養護老人ホームさつまの里、初富の里ではデイサービス、ショートステイも行う。

▲「宗教体験実習」として、三井寺での「止観」の体験をさせていただきました。

研修修了者

河合直美　　愛媛県　真言宗単立
栗部秀道　　広島県　曹洞宗
高橋周佐　　京都府　真言宗泉涌寺派
爲末せつ子　神奈川県　真言宗東寺派
中原永昌　　岡山県　真言宗御室派
丹羽隆浩　　埼玉県　曹洞宗
三谷靖法　　京都府　東寺真言宗
山﨑裕照　　愛媛県　真言宗醍醐派
横田孝治　　東京都　高野山真言宗
渡辺昧比　　京都府　大本

研修スタッフ

松本峰哲　真言宗御室派　種智院大学臨床密教センター長　東北大学臨床宗教師研修第6期修了生
谷山洋三　浄土真宗大谷派　東北大学実践宗教学寄付講座准教授
申英子　キリスト教　日本基督教団西九条ハニル教会牧師
大村哲夫　臨済宗　東北大学実践宗教学寄附講座助教
新田忍澄　高野山真言宗　東北大学臨床宗教師研修第5期修了生
野々目整子　浄土真宗大谷派　東北大学臨床宗教師研修第6期修了生
西郊良俊　天台宗　東北大学臨床宗教師研修第7期修了生
坂野大徹　浄土宗　東北大学臨床宗教師研修第7期修了生
楠直樹　浄土真宗大谷派　東北大学臨床宗教師研修第11期修了生
岩下仙海　真言宗豊山派
鷲尾龍華　東寺真言宗　種智院大学臨床密教センター事務担当　東北大学臨床宗教師研修第7期修了生

【プログラム内容】

講義科目

「臨床宗教師の倫理・理念」（谷山洋三先生）
臨床宗教師を目指すにあたって、その成立や現在に至るまでの経緯をたどり、臨床宗教師の理念を学んだ。また、臨床宗教師がケア対象者に対して守るべき倫理「臨床宗教師倫理綱領」の内容を確認し、公共空間で活動するために宗教者が臨床宗教師として活動するときに必要な宗教間協力・自分自身を見つめることなど諸事項を確認した。

「スピリチュアルケア」（谷山洋三先生）
「痛み」の中でも「病気」とは異なる「スピリチュアルペイン」があることを踏まえ、それを和らげるためのスピリチュアルケアの基本姿勢を学んだ。

「会話記録の作成法」（松本峰哲先生）
ケア対象者との会話を振り返る会話記録の作成に向けての解説。

「実習先説明」（谷山洋三先生）
実習先としてご協力いただく施設についての事前学習。また公共空間で活動する際の諸注意を確認した。

「宗教間協力と対話」（村上泰教先生）
「世界宗教者平和会議（ＷＣＲＰ）」での講師の実際の活動に基づいて、世界には様々な宗教対立があることを踏まえ、なぜ争いが起こるか、異なった宗教間でどのように対話していくかを考えた。

「グリーフケア」（谷山洋三先生）
喪失と悲嘆（グリーフ）について学び、それを癒すためのケアとして宗教者の「死者と生者をつなぐ」機能（葬儀や仏壇）が役立つことを理解した。また、悲嘆に伴う行動的・生理的反応や「あいまいな喪失」、治療のためのガイドラインについても学んだ。

「宗教的ケア」（谷山洋三先生）
スピリチュアルケアとは異なる宗教的ケアがどういったものであるかを学び、宗教者としてのケア、宗教的資源の活用について理解を深めた。

「人権擁護」（申英子先生）
申先生ご自身の体験を聞き、人種や性別による差別についてどのように感じるかを共有し、誰しもが持つ無意識的な差別感情について考えた。

「宗教における行の意味」（福家俊彦先生）
三井寺の歴史やその地域における信仰の形態について学んだ。

「公共性の確保」（松本峰哲先生）
臨床宗教師の活動の場は公共空間である。そのことを踏まえ、社会常識を守ること、各自が公共性を身に付けることの重要さを確認し、東日本大震災の際、公共空間において宗教者がどのような活動をしてきたか実例を挙げて考察した。

「介護現場と宗教者」（吉田敬一先生）
大阪の西栄寺で介護事業をする吉田先生自身の経験、実際に介護現場で知っておかなければならない知識、臨床宗教師の在り方などについてお話しいただいた。

「在宅医療」（田中至道先生）
沼口医院での臨床宗教師としての活動をもとに、患者さんとの向き合い方、臨床宗教師としての在り方について考えた。

「緩和ケア」（平野博先生）
緩和ケアとは何かについての理解を深め、講師の実体験に基づき、末期がん患者に接する緩和ケアの現場の話を通じて、ケア対象者に対してできることについて考えた。

「精神保健福祉」（大村哲夫先生）
ケア対象者との関わりの事例を示しながら、実際の受け答えや接し方について学んだ。

「臨床宗教師の倫理」（大村哲夫先生）
臨床宗教師として活動する際、「倫理綱領」に従うことになるが、実際にそれを犯していないか判断するのが難しいケースを挙げ、そのような場合の対処法について考えた。

「臨床密教学」（松本峰哲先生）
密教の教義を宗祖弘法大師の著作などをもとに再確認し、真言宗僧侶が現代において密教をどのように生かすことができるか考えた。

「民間信仰論」（松本峰哲先生）
現代日本において宗教の教義と一般に信仰されていることに乖離があることを確認し、臨床宗教師は自らの信仰を保持しつつ他者の信仰に寄り添う必要があることを学んだ。

講義・グループワーク
「ユマニチュード」（正井佳純先生）
介護を必要とする人への視線の向け方や姿勢、触れ方など、必要な援助の技術「ユマニチュード」についてビデオを鑑賞して学び、実際に二人一組で実践した。

「社会福祉」（近棟健二先生）
社会福祉とは何か、また高齢化に伴う介護福祉の現状を学んだ。実際に臨床宗教師が現場で活動する際深くかかわる介護に関する保険やサービス、今後予想される状況について理解を深めた。

グループワーク
「傾聴」（谷山洋三先生・申英子先生）
２人一組になり、人の話に耳を傾ける傾聴を実際にしてみて、フィードバックを行う。また、傾聴する際の姿勢や心構えについても学んだ。

「ロールプレイ」（谷山洋三先生・申英子先生）
２人一組になり、配布されたプリントに記載してある状況の中から一つ選択し、話し手と聞き手の役を演じる。そして、実際に話してみて話し手はどのように感じたか、聞き手はどういった感情が起こったかなどを振り返った。

「研修振り返り」（松本峰哲先生）
それぞれの全体会の最後に、研修を振り返り、感じたことを共有した。

「実習振り返り」（松本峰哲先生）
第２回・第３回全体会の初めに、前回の実習先での体験・気づきについて発表し、研修生同志で共有した。

「会話記録」（申英子先生・大村哲夫先生）
実習先での会話記録を、臨床宗教師、ケア対象者、ナレーション役を決めて読む。会話記録作成者は必ず自分がかかわったケア対象者のセリフを読み、どのように感じたかを共有した。

実習科目
「宗教体験実習」
三井寺で天台寺門宗の「止観」の体験をさせていただいた。

「日常儀礼」
それぞれの宗派で担当を決め、1人15分～30分で朝夕の勤行を行った。

「現場実習」（各地）
医療機関にご協力をいただき、現場での傾聴の実習を行った。

【全体会日程】

全体会1

5/9水
9:45　　石山寺集合
10:00 – 10:30　オリエンテーション 30分 松本峰哲
10:30 – 10:45　日常儀礼　15分
10:45 - 12:15　講義「臨床宗教師の倫理・理念」
90分　谷山　洋三
12:15 – 13:15　昼食・休憩
13:15 – 14:15　講義「スピリチュアルケア」60分
谷山　洋三
14:25 – 16:25　講義・グループワーク「社会福祉」
120分　近棟　健二
16:25 – 18:25　入浴・食事　120分
18:25 - 19:55　講義「宗教観間協力と対話」90分
村上　泰教
19:50 – 20:55　講義「実習先説明」　60分
20:55 – 21:10　日常儀礼（真言宗）15分
21:10 - 就寝

5/10木
7:00 – 7:30　朝食
7:30 – 8:00　日常儀礼（真言宗）30分
8:00 – 9:30　グループワーク「傾聴」90分
谷山　洋三・申　英子
9:40 – 10:40　講義「会話記録の作成法」60分
谷山　洋三
10:50 – 11:50　講義「宗教的ケア」60分
谷山　洋三
11:50 – 12:50　昼食・休憩　60分
12:50 – 14:20　講義「グリーフケア」90分
谷山　洋三
14:20 – 15:50　講義「人権擁護」　90分　申　英子
15:50 – 18:30　入浴・食事　160分
18:30 - 19:30　講義「公共性の確保」60分
谷山　洋三
19:30 – 21:00　講義「在宅医療」90分　田中　至道
21:00 – 21:15　日常儀礼（真言宗）15分
21:15 - 就寝

5/11金
7:30 – 8:00　日常儀礼（真言宗）30分
8:00 – 8:30　朝食
8:30 – 11:30　グループワーク「ロールプレイ」
90分　谷山　洋三・申　英子
11:40 – 13:10　昼食・掃除・休憩　90分
13:10 – 14:40　講義「緩和ケア」90分　平野　博
14:50 – 15:50　研修振り返り
15:50 – 16:05　日常儀礼（真言宗）15分
解散

全体会2

6/5火
9:45　　三井寺集合
10:00 – 10:15　オリエンテーション　15分
松本　峰哲
10:15 – 10:30　日常儀礼（大本）15分
10:30 – 12:00　グループワーク「実習振り返り」
90分　　松本　峰哲
12:00 – 13:00　昼食・休憩
13:00 – 16:30　グループワーク「会話記録」
210分　申　英子・大村　哲夫
16:30 – 18:30　入浴・夕食・休憩　120分
18:30 – 20:00　講義「介護現場と宗教者」90分
吉田　敬一
20:00 – 20:15　日常儀礼（曹洞宗）15分
21:10 - 就寝

6/6水
6:30 － 7:00　日常儀礼（天台宗）30分
7:00 － 7:30　朝食
7:30 － 8:30　講義「宗教における行の意味」
60分　福家　俊彦
8:30 － 11:00　宗教体験実習　150分
11:00 － 12:00　グループワーク
「宗教体験実習振り返り」60分　松本　峰哲
12:00 － 13:30　昼食・休憩
13:30 － 15:00　講義「民間信仰論」90分
松本　峰哲
15:00 － 16:00　グループワーク「研修振り返り」
60分　松本　峰哲
16:00 － 16:15　日常儀礼（曹洞宗）15分
解散

全体会3

7/3火
9:45　石山寺集合
10:00 － 10:15　日常儀礼（真言宗）15分
10:15 － 12:15　講義・グループワーク
「ユマニチュード」120分　正井　佳純
12:15 － 13:15　昼食・休憩
13:15 － 14:45　グループワーク「実習振り返り」
90分　松本　峰哲
14:55 － 16:25　講義「臨床密教学」　90分
松本　峰哲
16:25 － 18:25　入浴・休憩
19:55 － 20:10　講義「精神保健福祉」90分
大村　哲夫
20:10 －　懇親会

7/4水
7:00 － 7:30　朝食
7:30 － 8:00　日常儀礼（真言宗）30分
8:00 － 11:30　グループワーク「会話記録」210分
申　英子・大村　哲夫
11:30 － 13:00　昼食・掃除・休憩
13:00 － 14:30　講義「臨床宗教師の倫理」90分
大村　哲夫
14:30 － 15:30　グループワーク「研修振り返り」
60分　松本　峰哲
15:30 － 16:00　修了式　30分
16:00 － 16:15　日常儀礼（真言宗）15分
解散

受講生の感想
（第３回臨床宗教師養成講座）

種智院大学 臨床密教センターの第 3 回目の研修では、10 名の臨床宗教師が新たに誕生しました。それぞれに胸に抱く思いを語っていただきます。

河合 直美さん
（真言宗単立）

今回の研修は、短い期間ではありましたが、私にとって、とても濃い内容のものでした。

特に、会話記録の検討会では、自分では意識していなかった、自分の傾向が、はっきりとわかりました。

例えば、ケア対象者様のつらさ、悲しみに寄り添う時、私は、岡部医師の、暗闇の中に一緒に降りて行く、というフレーズが頭に残っており、対象者様の悲しみに同調することを過度に意識してしまい、その暗い部分だけを追いかけてしまったため、せつない感じだけで会話が終わってしまいました。

しかしながら、せつない会話の中にも、少しでも明るい部分があれば、それを見逃さず、対象者様の気分を明るい方向に持っていくこともできるのだとわかりました。

同じ対象者様との会話でも、対応した臨床宗教師の力量によって、せつない気持ちのまま終わってしまったり、明るい気持ちになってもらったりと、本当は、このような差があってはならず、どの臨床宗教師のケアを受けても、一定の水準が維持されることが大切です。

そのために、自分はもっと努力しなければならず、誘導といった形をとらなくても、対象者様が、自然に、明るい気持ち、安心感を持ってくれるようなケアができたら良いなと思います。

栗部 秀道さん
（曹洞宗）

「臨床宗教師」という言葉と出会い、そして、種智院大学の臨床宗教師養成講座と出会った。志望動機に書いた一文に「寄り添う事から始める。あるいは、思いを聴くことから始める」と記している自分がいた。研修を進める中で、継続していく為には、自分自身のことをもっと見つめなければならないことに気づかされた。そのためには、周囲の人々の力を借りて自分自身を見つめなければならないことや、自分自身を、素直に受け止めることが大切であると気づかされた。

病院実習では、具体的にどのような方法で実践されているのかを勉強させて頂き、臨床宗教師が活動していく現場を経験させて頂けるという貴重な機会を与えて頂いた。病院の皆様方にも深く感謝しなければならない。

研修において、宗教・宗派を越えて得難い 10 人の仲間ができたこと。そして、同じ目標を持つ仲間として、様々な話題について話す機会を得たことは、人生の中でも大きな出来事と言えるのかもしれない。これまでと同じ生活では、決して出会うことの無かった人ばかりであり、自分自身の宗教観、世界観を再考する機会としては、申し分のない時間であったと感じている。

研修を通じて大きかったことは、「自己を見つめ、自己を知る」為の大切な機会を与えられた気がする。これから先、この経験を活かせるよう研鑽を重ねていきたい。

高橋 周佐さん
（真言宗泉涌寺派）

種智院大学の臨床宗教師養成講座を受講させて頂き、まずは無事カリキュラムを修了することができましたことに、深く感謝致しております。種智院大学臨床密教センターの松本先生、鷲尾様、講義を通して多くのことをお教え下さいました諸先生方、この講座が潤滑に進行できるようご協力して下さっていた諸先輩のスタッフの皆様、研修会場の石山寺様、三井寺様、個人的に実習でお世話になりました松阪市民病院緩和ケア病棟の平野先生はじめ職員の皆様、そしてこの研修を受講することに応援と協力をしてくれた妻と子供達、皆様にこの場をお借りして改めて感謝御礼申し上げます。ありがとうございました。

今はまだ「臨床宗教師」という通行手形を頂くための扉を開けただけかと思いますが、その扉を開けたということに大きな意味があるように思います。この世に生を受け、一人の宗教者であるからには、誰もが必ず迎える「死」や、大切な人を亡くすこと、そしてそのことから生じる「不安」「悲しみ」、時には「恐怖」や「怒り」もあるかもしれませんが、そこに携わり、学びをもって然るべきであり、そこに携わるという責任と覚悟をしっかりと認識しなければいけないということ、それがまさに扉を開けたこの時から始まっており、「臨床」というテーマと向き合い、人として、宗教者として、自己の研鑽がなされようとしている。まさにその瞬間ではないかと感じております。

これから「臨床宗教師」の仲間入りをさせて頂くにあたり、諸先生方、先輩の皆様にはどうぞご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

爲末 せつ子さん
（真言宗東寺派）

まず、今回の「平成３０年７月西日本豪雨」で犠牲になられた方々のご冥福を衷心よりお祈り申し上げますと共に、被害に遭われた皆様方に心よりお見舞い申し上げます。

足かけ３か月で計７日間の座学と４日間の現場実習というプログラムを無事に完走出来て今は正直ホッとしています。

お寺で生まれた者として「回向をする以外に僧侶(尼僧)が出来る何か」や「お檀家さんに寺族が出来る何か」をずっと考えておりましたので、臨床宗教師のような活動に以前から興味がありましたがなかなか機会に恵まれず、今回受講する機会を得ることが出来感謝いたしております。

とはいえ、これでやっとスタートラインに立てただけなので、これからいろいろな場面で「自分自身を見つめ」「多様な価値観を認める」ことを続けて、「お互いにとって『良い時間』」を過ごせるように努めて参りたいと思います。

その結果、対象者さんから「あなたと話せて良かった」と言って頂けたら嬉しいですね。

最後になりましたが、今回ご縁を頂いたセンター長の松本先生を始め講習にご協力いただいた諸先輩方々、並びに机を並べて受講した同期の皆さま方に心からお礼と感謝を申し上げますと共に、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

では、今度は現場で皆さまとお目にかかれますように…。

中原 永昌さん（真言宗御室派）

研修を振り返えりますと、自らの宗教観を見つめ直させていただける、貴重な場を与えていただけたことに対する、感謝の念でいっぱいになりました。

未熟な私にとって、優秀な講師の方々をはじめ、人生経験が豊かな先輩方から、直接講義を受けさせていただけたことは、何よりの財産となりました。この場をもちまして、深く御礼申し上げます。

研修中に様々な葛藤や、自分の未熟さを痛感しました。
特に、自分の考えが整理できていない状況で、失言等が重なり、関係者の方々には不快の念を与えてしまったかもしれず、大変申し訳なく思います。
特に、「宗教者としてやっていきたい・・・」と口にしたことは、反省しております。臨床宗教師としての活動が、「布教しても伝わらない・・・」と、ある種「宗教者を諦める・・・」印象を受けてしまったからです。
しかし、先生方の講義を聞かせていただく過程で、宗教者としてのバックグラウンドをもった状態で、傾聴することにより、悩みや不安を自ら解決する手助けとなることに気づかせていただきました。

人によっては、宗教的ケアを極端に嫌う人もいることも事実であり、そのような観点からも、傾聴は非常に優れていると感じました。

宗教者と臨床宗教師は、アプローチは異なりますが、両者ともに「心の救済と自立」を目的としております。どちらが・・・というよりも、どちらも必要とされているなかで、自分はどのような立ち位置でやっていくのか・・・。私は、とある方の「傾聴」に随分助けられましたので、これから大いに悩むこととなりそうです。

遠くない将来、お寺の数は半数以下になるという厳しい現実があります。今回の研修を通じて、宗教者に求められる事柄に対して、自分自身の姿勢は本当にそれでいいのか・・・常に問いかける必要性があることに気づかせていただきました。本当に貴重な機会をありがとうございました。

丹羽 隆浩さん（曹洞宗）

講座を受講する前にある人に言われた言葉があります。『とてもやりがいのあることだし、たくさんの学びがある。但し、逃げられない。覚悟が必要だ。』その言葉を聞いた年に、私はある御縁を頂いて種智院大学の臨床宗教師養成講座を受講しました。受講理由は、単純にお坊さんとして学ぶべきだと思ったからで

す。そして、自分の事をもっと知りたいという気持ちもありました。

いざ会場に向かうとそこには受講する仲間が9人いて、みんながそれぞれに内に秘めるものを持っていたように感じました。それが受講理由なのか目指す目標なのかは分かりませんが、みんな同じ方向を見て進んでいる。神道、真言宗、曹洞宗と多種な宗派が集まりましたが、多くを語らずともすぐに打ち解けることが出来ました。

講義は座学、グループワーク、現地実習、実習振り返りがありましたが、特に印象的なのは実習振り返りながらの会話記録検討です。相手との会話を記録し、その時その時の自分の気持ちを丁寧になぞっていくのですが、意外にも精神的な消耗がかなり大きかったことに驚きました。相手に寄り添うということは、相手の感情にも触れることがあります。感情に触れ自分が辛くなってしまうことがありましたが、その時には受講する前に聞いた言葉を思い出しました。

寄り添うことには覚悟が必要です。そのなかで自分を知り、相手を知る。菩薩業の一つなのではないかなと感じました。

先生方、同期の皆さん、実習先のスタッフの方々、残り少ない時間を私に下さった方々の講義であったりお話であったり生であったり死であったり。たくさんのことから学ばせていただきました。これからも覚悟を持って修行していきたいと思います。

三谷 靖法さん（東寺真言宗）

当初、あまり深く考える事無く、講習受講した臨床宗教師でしたが、先生方、先輩方又、同期の方達との出会いは、かけがえのない貴重なものでした。

また講義は、自分が求めていたものに出会えた気がしました。

しかし、自分を見つめて行く作業の中で、自分は問題点、欠陥の多い一人の人間で、傲慢で優しくなく又、クライアントを傷つけてしまう可能性のあることもわかりました。

本講座期間中は講習以外にも、人間関係を勉強されられることがあり、半ば強制的に自己開示させられ、自分の愚かさ、恥部をさらけ出しながら、逃げない、怒らない、切り捨てない、傷つけない、そこに居続けるという、自分の最も苦手とする作業を続けさせられました。　いつまで、こんな恥ずかしく苦しく、さらけ出す作業が続くのかと思いましたが、とりあえず一区切りするところまでできたと思います。　それをさせてくれた方には感謝しかありません。

傾聴は難しく、優しさ、強さ、丁寧な作業が求められ、自分が公共空間で臨床宗教師として活動できるかどうかわかりませんが、臨床宗教師の勉強は、自分を鍛えてくれます。

宗教者、人としての基本がしっかりしていなくては務まらないと思いました。

自分の問題、限界、無力さを痛感しますが、僧侶としても、一人の人間としても活かしていけるものだと思いますので、これからもへこみながら勉強を続けていきたいと思います。

しんどかったですが、この講習期間は宝物のように思います。　ありがとうございました。

山﨑 裕照さん（真言宗醍醐派）

私にとって５月から３ヶ月に渡る研修は、長い様であっという間でした。

今回の研修を受け、何よりも心に留まっている事は、『他人と自分の感情というのは同じものを見聞きしても違う』という事です。特にその奥にある感情は全く違っており、グループワークではそれを痛感致しました。

この違いが出てくるのは当然の事ですが、その当然

の事がとても大切なことであり、この個々の違いを受け止め認めることで、そこから自分自身の今まで見えていなかった部分を知ることもできました。

それによって私自身、普段の生活の中の会話でも、以前に増して耳を傾け、相手の感情をより一層考えるようになりました。

また今回の研修で他宗教、他宗派の方と一緒に受講をし、関わりを持てた事は私の中の１つの大きな財産となりました。そしてその中で、まだまだ自分自身の宗教に対しての知識が浅いという事を感じました。これから更に知識を深めていけるよう少しずつ努力していきたいと思います。

最後になりましたが、この三ヶ月間、ご指導いただいた先生方やスタッフの皆様に感謝申し上げます。また素晴らしい仲間と研修を終えたことを大変嬉しく思います。

まだまだ手探り状態ではありますが、まずは自分の身近な所から、今回の研修で学んだことを生かしていければと思っております。

本当にありがとうございました。これからもご指導の程よろしくお願い致します。

横田 孝治さん（高野山真言宗）

受講させて頂き、こころから感謝しております。

実は、２回目の全体集会までは“宗教者が傾聴する必要性”についてよく判らず、普段行っているパーソンセンタード（クライアント中心療法）との差についても、布教せずに傾聴すればそれでよいのかしら？宗教者の傾聴って、自分にできるのだろうか？と不安感が、かなりありました。

それが、講座での学びが深まるにつれ、カウンセリングの前にいつもなんとなく行っている祈りや、なにも話さなくても霊的に共にいさせて頂くことを大切にしていることや、苦しい沈黙が続いて待たねばならぬ時に相手の内に自らを救う仏性があることを心底信じて待っていること、そのようにできた時にクライアントが見せる安心してくださっている様子など、自分が普段から宗教者っぽく、もしかして「宗教者だからできる傾聴」に少しだけ近づいたのかもしれない、と安堵できました。このような機会がなければずっと気づかなかった事かもしれません。

実習は、くぬぎ山ファミリークリニックで大変お世話になりました。細田院長と川上師長から、終末期の患者さん達への細やかな優しい気遣いや地域医療への熱い想い、医療者として個人としてお持ちの死生観、臨床宗教師への期待も教わり、カフェ・デ・モンクも経験でき、とにかく他ではできない素晴らしい体験が盛り沢山で、今後の活動の礎になりました。

その他、これほど多勢の他宗教・宗派の方たちと同じ研修生として寝食を共にしたことは、
私にとって初めての経験で、これまで私の内で無意識に作っていた壁や距離感が縮まり、臨床宗教師として共に活動していく生涯の仲間として親交を深めています。

他の宗教・宗派の考え方や作法の違い、そして共通点に興味を覚えると共に、自分のホームである空海上人になぜ自分は惹かれ必要なのか、なにが他と違うのかを深く熟考し、“やっぱり空海上人の高野山が一番！（自分には）”と信心を深める機会ともなりました。

渡辺 昧比さん（大本）

はじめに

『臨床宗教師養成講座』受講は、私には大きなリスクを孕むものだった。弟の死から３年、母の死から半年を過ぎたばかりでグリーフどっぷりの時期に受講を続けられたのは、私の人生の中での成り行き、何よりも臨床宗教師として死に向かう人々（家族も含む）に寄り添う存在の必要性を強く感じたからである。

受講して感じたこと

受講して強く思ったことは、ロールプレイやそれを元にした話し合いについてである。『自分の感情を見つ

け、癖を知る』ことは、ふだんしているようであまりない。これは講座での勉強だけではなく、人生の役にも立つと痛感した。他に印象に残ったのは、実習先での訪問診療である。寝たきりの患者さんに、診療後、スタッフと一緒に誕生日を祝っての♪ハピー　バースディ　トゥ　ユゥ♪を歌った。最後の♫トゥ　○○さん…♫と名前を呼びかけた時、突然、はっきりと「嬉しい！」と言って手で顔を覆い、号泣されたことである。落ち着いてから看護師さんに聞くと、「たまぁに、ありますね。こういうことがあるから、私達も頑張れるんです」と言われた。「いのちはデータを超える計り知れない面もある」と実感した。今、思い返しても、あの一コマは私の脳裏に強く印象付けられている。

研修を終えて

死は命の輪廻の中では、一つの通過点に過ぎないと言うものの、現実の問題としては、「如何に次のステージに行くか」「今回の人生を如何に自分らしく統合するか」など大きな課題がある。同時に家族もまた、重要な役割を持つ。人間的な器やスピリチュアリティも問われる中で、私のライフワークの一つとして、『逝く人と見送る人』のサポートという重大な仕事に関われるよう、努力したいと思う。最後に、講師の先生方やスタッフの方々、仲間の受講生の方々に心よりのお礼を申し上げます。

編集後記

今年度の臨床宗教師養成講座は、東北大学実践宗教学寄附講座との共催という形になり、真言宗以外の宗派の方の受け入れも開始しました。より開かれた空気の中で行われた研修の雰囲気が伝われば幸いです。

今年は災害が立て続けに起こり、悲しい思いをされている方がたくさんおられます。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げるとともに、私たちにできることから支援をしてまいりたいと思います。

種智院大学　臨床密教センター
第３回臨床宗教師養成講座　報告
2018 年 9 月 27 日発行（第１刷）

今回の研修は、公益社団法人 仏教伝道協会様からの助成を受けて実施しました。心より感謝申し上げます。

臨床宗教師関係団体

日本臨床宗教師会
sucj@g-mail.tohoku-university.jp （事務局）
北海道東北　ht.rinshushikai@gmail.com（事務局）
関東　kanto.rinsyo.syukyoshi@gmail.com（事務局）
中部　chubu.rinsyu@gmail.com（事務局）
関西　info.kansai.chaplain@gmail.com（事務局）
中国地方　ch5rinshu@yahoo.co.jp（事務局）
四国　p005@me.com（童銅啓純）
九州　k.rinsyu@gmail.com （事務局）

寄付のお願い

臨床密教センターの理念及び臨床宗教師養成の趣旨に賛同してくださる方に寄付金をお願いしております。

【寄付金の目的・使途】

目的：臨床密教センターの運営及び臨床宗教師養成講座等、センターの実施する講座等運営の為に必要な費用に充当することを目的としております。

使途：臨床密教センターの経常的経費及びセンターの実施する講座等の運営費に充当いたします。

【寄付金の免税措置について】

臨床密教センターが設置されております学校法人綜藝種智院は、文部科学大臣から寄付金募集について特定公益増進法人の認可を受けています。ご寄付をいただきました場合、以下の基準により個人又は法人の所得から控除され、税制上の優遇措置を受けることができます。

【寄付に関するお問い合わせ】

学校法人綜藝種智院　法人事務室
Tel：075-604-5600（大学代表）
〒612-8156 京都市伏見区向島西定請70番地

種智院大学 臨床密教センター

〒612-8156
京都市伏見区向島西定請 70
Email: rinmitsu@shuchiin.ac.jp
Tel: 075-604-5743
Fax: 075-604-5646